

第2学年 外国語科学習指導案

令和2年7月21日(火)
2年1組 計10名
授業者

1 校内研究テーマ

新たな時代を切り拓く「資質・能力」の育成
～深い学びの視点からの教育活動の充実を通して～

2 単元名 Chapter2 Lesson3 Flight to the U.K. Total English 2(学校図書) P33～43

3 単元の目標

- ・外国について興味を持ち、行ってみたい国について旅行の計画をたてることができる。
- ・未来を表す will、be going to を用いた文の構造を理解できる。
- ・外国旅行での場面・状況に応じた必要な英語を使用することができる。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、「旅行」というテーマであり、そのテーマに向かって未来を表す will や be going to を使用し、「～でしょう」と予測したり、「～するつもりです」と意思を表したりする表現、予定していることや、起こりそうなことを表す表現を学習する。外国旅行に関する計画や予定についての自分の考えや他者の考えをもとに、やりとりや発表をする主体的で対話的な活動を通して、深い学びへとアプローチできるであろう。

(2) 生徒観

好奇心旺盛で、授業内の各活動において非常に前向きに取り組むことができる学級である。先日行われた標準学力調査の結果から本学級を分析すると、80pt 以上の生徒が2割、50～79pt の生徒が6割、49pt 以下が2割と分布しており、下位の2割の生徒へのよりきめ細やかな対応が必要である。また、問題別に課題のある問いを分析すると、「対話の流れと図をもとに、読み取ること」や「対話の流れに合った英文を書くこと」など「対話の流れ」に沿った問いに共通して課題が見られる。授業において、より自然な対話を継続できるような言語活動への取組の工夫が必要である。

(3) 指導観

THINK-PAIR-SHARE-THINK の授業内での効果的なサイクルに活動の重点をおき、協働による深い学びを重視し、目的、場面、状況に応じた言語活動を繰り返し行えるよう指導を充実させたい。その際、common mistake などへのFBを適宜行い、accuracy を高める活動もバランス良く取り入れる。今回の外国での計画や予定をたてたり、尋ねたりする活動を通して、生徒ひとりひとりの異文化への理解や、広い世界に出て行きたい、という憧れや好奇心を更に高められるよう、Authentic な活動になるよう指導に取り組む。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 未来を表す will や be going to を用いた文の構造を理解している。	外国での旅行について相手に伝わるように、予定や計画を整理し、簡単な	自分の行ってみたい国について相手に伝わるように、予定や計画を整理し、
〈技能〉 外国への旅行計画について、予定や計画を整理し、will や be going to を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身につけている。	語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

6 単元の指導計画(全 8 時間)

【*評価規準の欄には「記録に残す評価」のみ記載する】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	will ①本単元のゴールとして、外国での予定や計画について話せるようになることを知る ②「週末の予定」を will を使って説明。	・当該言語材料を使用させる過程で、その規則性等を理解することができるようにする。	【知識・技能】 ワークシート
2	①教科書 3A・B リスニング・リーディング ②SMALL TALK「夏休みの予定」について説明。	・イントネーション等を意識して音読 ・think-pair-share-think 形式で説明する。common error をもとに FB を与える。	【思考・判断・表現】 やり取りを観察 (PT) ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 観察・ワークシート
3	will と be going to の使われ方の違いに気づく。	・ALT との Authentic な活動の中で新出の be going to の使用場面を明確にし、その場面の中で当該言語材料の「音」と「意味」と「形式」と「使い方」を理解することができるようにする。	【知識・技能】 ワークシート
4	be going to ○「時間割」をもとに be going to を使って説明。	・当該言語材料を使用させる過程でその規則性等を理解することができるようにする。	【知識・技能】 ワークシート
5	①教科書 3C・D リスニング・リーディング ②SMALL TALK「明日の予定」について説明。	・イントネーション等を意識して音読 ・think-pair-share-think 形式で説明する。common error をもとに FB を与える。	【思考・判断・表現】 PT ワークシート
6 本時	①やり取りや Q&A など教科書内容を理解 ②入国審査官と入国者のロールプレイでやりとり	・think-pair-share-think 形式で説明する。common error をもとに FB を与える。	【思考・判断・表現】 観察・ワークシート
7	①Re-TELL で教科書内容の理解を確認 ②入国審査官と入国者のロールプレイでパフォーマンス	・パフォーマンスから、英語の正確さや、発音を評価し、生徒に伝える。	【知識・技能】 PT ワークシート 【思考・判断・表現】 PT
8	①自分の行きたい国での計画や予定を発表	・パフォーマンスから、英語の正確さや、発音を評価し、生徒に伝える。	PT

※PT→パフォーマンステスト

7 本時の学習(7/8時間目)

- 本時のねらい 外国での予定や計画を will と be going to を使って、伝え合うことができる。
- 授業視点 未来表現である will と be going to の指導において、目的・場面・状況に応じたやり取りを行うことによって、コミュニケーションの目的を達成する上での当該言語材料の必要性や有用性を実感させ、伝え合う力が身に付くであろう。

(2) 展開（事例）

	学習活動	形態	教師の支援(☆) と 評価(■)
導入 10 分	1 教師の話聞く	個人	Q&A により確認 (☆) 話の概要を聞き取る事ができる (■)
	2 教科書内容を PICTURE CARD で確認する	ペア	観察・Q&A (☆) キーワードをもとに伝え合うことができる (■)

	3めあて	入国審査を通ることができる。 (外国での計画や予定を伝えることができる)	
展 開 30 分	4 いくつかの国について紹介し、その国で できることなどを確認 5 brochure をもとに、その国での予定や計画 について伝え合う。 SHOW MODEL 教師の話す外国での計画や予定を聞き取る ワークシートをもとに 外国での自由行動について考える 入国審査官と入国者にわかれ、その国での 予定や計画について尋ねたり、伝えたりす る 相手を代え、再び行う 6 外国での日程表をもとに、その国での予定 や計画について書く (HOMEWORK へ)	自 考 自 考 ペア 自 考	外国への興味を引き出す (☆) 当該言語材料 (will と be going) の 使われかたの違いに気づかせる (☆) ワークシートに教師の計画を記入す ることができる (■) D0-FB-D0 again (☆) 当該言語材料を使って伝えることが できる (■) 観察 (☆) MONITOR & Give FB (☆) 当該言語材料の共通して見られる誤 りをもとに、正確性を高める (☆) will と be going to を使って外国で の予定や計画について書くことがで きる (■)
終 末 10 分	7 まとめ	外国での予定や計画について伝えるためには will と be going to の使い方に 気を付けて伝えることが大切。	
	8 振り返り	ノートに振り返りを記入する。	振り返りの視点 できるようになったこと もっと探究したいこと 日常生活とのつながり を意識させる (☆)

(3) 板書計画

the Day / the Date			
めあて	入国審査を通ることができる。 (外国での計画や予定を伝えることができる)	Immigration Welcome to ・ U.S ・ Peru ・ Australia ・ New zealand	New words
 Where? How long? What are you going to do?	まとめ	予定や計画を伝える時は、will と be going to の違い に気を付けて、伝える。	